書　評

# Georg Simmel on Individuality and Social Forms

(Edited and with an Introduction by Donald N. Levine)

米　倉　佑　貴

本書は形式社会学を提唱したゲオルク・ジンメルの業績から編者の Donald N. Levine が代表的なものを選びまとめたものである．本書ではジンメルの著作のうち英訳されているものを可能なかぎり収録すると同時に，ジンメルの代表的な著作を提示すること，ジンメルの広範にわたる理論を体系的に学習したいと考える読者にある種の出発点を提供することが目指されている (INTRODUCTION lxii)．すなわち，本書はジンメル社会学の入門書としての役割も持っているといえよう．

収録されている業績はドイツ語で書かれたものであるが，このうち半分はすでに英訳されていたもの，残りの半分は編者らが新たに英訳したものとなっている（INTRODUCTION lxii)．

本書は以下のように編者の Levine によるイントロダクションと6つのパートの業績集から構成されている．

INTRODUCTION
I. PHILOSOPHY OF THE SOCIAL SCIENCES
　1. How Is History Possible?
　2. How Is Society Possible?
　3. The Problem of Sociology
　4. The Categories of Human Experience
II. FORMS OF SOCIAL INTERACTION
　5. Exchange
　6. Conflict
　7. Domination
　8. Prostitution
　9. Sociability
III. SOCIAL TYPES
　10. The Stranger
　11. The Poor
　12. The Miser and the Spendthrift
　13. The Adventurer
　14. The Nobility
IV. FORMS OF INDIVIDUALITY
　15. Freedom and Individual
　16. Subjective Culture
　17. Eros, Platonic and Modern
V. INDIVIDUALITY AND SOCIAL STRUCTURE
　18. Group Expansion and the Development of Individuality
　19. Fashion
　20. The Metropolis and Mental Life
　21. Subordination and Personal Fulfillment
VI. FORMS VERSUS LIFE PROCESS: THE DIALECTICS OF CHANGE
　22. Social Forms and Inner Needs
　23. The Transcendent Character of Life
　24. The Conflict in Modern Culture

イントロダクションでは，ジンメルが生きた時代の背景やジンメルの人物像について記述されている．その後，ジンメルの思想や方法論，ジンメルの研究が当時の研究者に与えた影響や，その後の発展が描かれている．また，イントロダクションではこれに続く6パートの業績集の要約も含んでいる．以下，各パートの説明を引用する (INTRODUCTION lxiii-lxv).

パートⅠの「PHILOSOPHY OF THE SOCIAL SCIENCES」ではカントの認識のアプリオリをどのように採用したかの4つの方法が描かれる．チャプター1では歴史知識についてである．ここでは文化的志向性 [cultural orientation] が含まれる．チャプター2では形式の指

示対象が知識の領域から存在の領域に変化する．ここでジンメルは他者と関わるためにどのような志向性の形式を持つ必要があるかを問う．チャプター3では複数の人間が関わりあう様式が問の対象となる．ジンメルは社会学が対象とすべきものはこうした形式であると主張する．チャプター4では形式を認知のカテゴリーと考える．ここでは様々な人間が経験する内容をどのように体系付けるかについて考察される．

パート II の「FORMS OF SOCIAL INTERACTION」ではチャプター3「The Problem of Sociology」で論じられた相互作用の形式の分析が描かれる．パート II の最初のチャプターである "Exchange" は貨幣の意味と貨幣が主役となった社会の性質に関するジンメルの著書 "Philosophie des Geldes" の一部である．これがここに含まれているのは，ジンメルが社会的交換に関する当時の理論をどのように考えていたのかを示すだけではなく，ここで示される交換というパラダイムがこの領域において今なお示唆に富むことを示すためでもある．チャプター5の Exchange，チャプター6の Conflict，チャプター7の Domination ではさらに価値や規範，良心は相互作用の産物として描かれている．この視点はこうした概念を行為システムの「基礎」とする視点と好対照をなす．読者はここで提示される「exchange」，「conflict」，「domination」，「prostitution」，「sociability」に関するジンメルの分析を比べることでジンメルの社会学や社会化の過程について多くを学ぶことができるだろう．

ジンメルは社会のタイプ [social types] を解釈するのに2つの方法を用いている．一つは相互作用の構造の中における特定の地位の特徴という観点からの分析である．この観点についてはパート3，「SOCIAL TYPES」の最初の2つのチャプター，"The Stranger"，"The Poor" で描かれる．一方でジンメルはあるタイプの人間を現実の世界における志向性の観点から描写する方法を好んでいた．こうした方法はパート3の後半の3つのチャプター，"The Miser and the Spendthrift"，"The Adventurer"，"The Nobility" で描かれる．

ジンメルの業績の大半を占める個性 [individuality] というテーマはパート4「FORMS OF INDIVIDUALITY」とパート5「INDIVIDUALITY AND SOCIAL STRUCTURE」で集中して取り上げている．パート4は個性の哲学的分析からなる．これは18世紀と19世紀における個性の概念と自由という概念の関連性，主観的文化に伴う個性の完全化，愛という概念の中における個性の位置づけについてである．

パート5では集団の大きさ，貨幣経済，流行の移り変わり，社会関係の階層的組織といった社会学的変数が個性に与える影響について考察している．

確立した形式と生の欲求の葛藤についての内容がパート6「FORMS VERSUS LIFE PROCESS: THE DIALECTICS OF CHANGE」を構成している．これらのテーマはジンメルの晩年の作である．ここでは社会関係，形而上学，近代文化の3領域において上述のテーマが検討されている．

このように本書からジンメルの多岐にわたる理論や思想を学ぶことができる．恥ずかしながら評者はジンメルはおろか社会学の予備知識がほとんどなかったため，内容を理解するのに幾分困難を感じたが，所々にある具体的な例は本書の内容の理解を助けてくれた．本書の内容の中で評者が最も関心を持ったのは分野を超えて人と人の相互作用を研究対象とした形式社会学の考え方である．社会学のバックグラウンドを持たない評者にとって，こうした考え方は実に新鮮であった．また，特定の分野に依存せず，相互作用の形式に着目したジンメルの分析の多分野への応用可能性も感じられた．評者の専門とする保健医療の分野においても，人と人，人と社会の関わりは人々の健康を決定する重要な要因とみなされている．こうした人と人との関わりに関する研究がより一層発展し，様々な分野で応用できる知見が蓄積されることを期待している．